

《ふりかえり もんだい⑧》

上の絵の^{うえ}ただしいかぞえかたをかんがえます。
□の中の^{なか}すうじにあったかぞえかたで書こう。

【れい】ヘリコプター



① はち

1 いつき

3 さんき



② コート

1 いっぴき

2 にひき

6 ろっぴき

9 きゆうひき



1 いっちやく

2 にちやく

5 ごちやく

8 はっちやく

③ コップのみず



1 いっぱい

3 さんばい

4 よんはい

9 きゆうはい

④ すいてき



1 いってき

2 にてき

7 ななてき

10 じゅうてき

⑤ だるま



1 いったい

2 にたい

5 ごたい

10 じゅうたい

つぎのアからウの三つのことばのうち、
ただしい書きかたをえらぼう。

①

ア りようり
イ りよおり
ウ りよーり

②

ア ちよーちよ
イ ちようちよ
ウ ちよおちよ

③

ア ぼうし
イ ぼーし
ウ ぼおし

④

ア おうさま
イ おーさま
ウ おおさま

ア

ア

イ

ア

つぎのことばの□のところに、あるひらがな一もじ
を入れると、ことばがかんせいします。□にあてはま
るひらがなを下からえらんで書こう。

①

そ
□
せ
□
じ

②

か
□
いもの
□
か
ご

③

お
□
と
□
と

④

くり
□
す
ま
□
す

⑤

か
□
きせ
□
ん

⑥

きよ
□
う
りゆ
□
う

か と ん す ー う



②
ほん

8 はっさつ	1 いっさつ
9 きゅうさつ	4 よんさつ



①
えんぴつ

8 はっぽん	1 いっぽん
9 きゅうほん	3 さんぽん



【れい】とけい（じかん）

1 いちじかん	3 さんじかん
------------	------------

上の絵のただしいかぞえかたをかんがえます。
□の中のすうじにあったかぞえかたで書こう。



⑤
いちご

8 はっつぶ	1 ひとつぶ
10 じゅうつつぶ	2 ふたつぶ



④
とけい（ふん）

5 ごふん	1 いっふん
10 じゅうふん	2 にふん



③
くつ

7 ななそく	1 いっそく
10 じゅうそく	2 にそく

つぎのアからウの三つのことばのうち、
ただし書きかたをえらぼう。

①

ア とけい
イ とけえ
ウ とけー

②

ア けいさん
イ けえさん
ウ けーさん

③

ア えーご
イ ええご
ウ えいご

④

ア けーさつ
イ けいさつ
ウ けえさつ

ア

ア

ウ

イ

つぎのことばの□のところに、あるひらがな一もじ
を入れると、ことばがかんせいします。□にあてはま
るひらがなを下からえらんで書こう。

①

い

しやき

い

も

②

あ

ぶら

あ

げ

③

し

のびあ

し

④

ろ

るけ

ー

き

⑤

お

せ

ん

⑥

ち

う

ち

よ

あ い よ ー し ん

つぎの 文^{ぶん}しようによんでといに答^{こた}えよう。

つばきは、まじよの手^てがみを手^てにとって、もう
いちどよくよみました。そして、かおを^あ上げて、
② どうろの^{さゆう}左右をたしかめました。車^{くるま}は来^きません。
① どうしましうか。えい、おもいきってどうろを
走^{はし}ってつっきりました。そのいきおいのままさく
の下^{した}をくぐりぬけ、つばきはまじよのもりにとつ
にゆうしました。あたりはうすぐらく、
とした気^けはいがつばきをつつみました。

(1) —せん①「まじよの手^てがみ」とありますが、
どんなことが書^かかれていとおもいますか。アか
らウからえらぼう。

- ア まじよのもりへのちず
- イ どうろのわたりかた
- ウ さくの下のくぐるぬけかた

ア

(2) —せん②「どうしましうか」とありますが、
何^{なに}を、どうしようとかんがえましたか。□の中^{なか}に入る
ことばを書^かこう。

車^{くるま}が来^こないので
おもいきって
走^{はし}ってつっきり
と、
かんがえた。

(3) □には、どのようなことばが^{はい}入りますか。アから
ウからえらぼう。

- ア ひんやり
- イ ぽっかり
- ウ しょんぼり

ア

つぎの 文^{ぶん}しょうをよんでといに答^{こた}えよう。

空^{そら}色^{いろ}のつるは、えだからえだへからまって、森^{もり}のおくへつづいていました。つるには、あちこち葉^はっぱが^で出て、ところどころ青^{あお}むらさきや 赤^{あか}むらさきのみまでついています。それが、つばきが^{ある}歩^{ある}くとスルスと、まるで「」と言^いっているようにひっこんでゆくのです。そのとき、葉^はっぱやみをそつと地^じめんにおとしてゆくので、それが^②まるでみちしるべのようでした。そうか、このあとをたどればいいんだ、とつばきはおもいました。

(1)―せん①「森^{もり}のおくへつづいていました」とありますが、何^{なに}が森^{もり}のおくへつづいているのですか。□の中^{なか}に書^かこう。

そらいろのつる

(2)「」には、どんなことばが入りますか。アからウからえらぼう。

ア あっちへ いけ。
イ どこへ いくの。
ウ こっちへ おいで。

ウ

(3)―せん②「まるでみちしるべのようでした」とありますが、何^{なに}がみちしるべのようになっているのですか。□の中^{なか}に書^かこう。

地めんにおちた葉っぱやみ

つぎの 文（ぶん）しょうをよんでといに答（こた）えよう。

きつねの子（こ）が森（もり）で、黄色（きいろ）いばけつを見（み）つけました。それは、まえからほしかった黄色（きいろ）のばけつでした。そこで一（いっ）しゅうかんまって、だれもとりにこなかったら、じぶんのものにしようときめました。きつねの子（こ）はまい日（にち）ばけつを見（み）にいきます。

そして、とうとう月（げつ）よう日（び）。あさはやく、きつねの子（こ）がきてみると、ばけつはなくなっていました。「ぎんねんだなあ。」くまの子（こ）がきて、いいました。「きのうは、ちゃんとあったのにね。」うさぎの子（こ）もきていいました。「もちぬしがとりにきたのかな。」「だれかがとおりすがりにひろっていったのかしら。」くまの子（こ）と、うさぎの子（こ）が、くちぐちにいました。（どっちでもいい）と、きつねの子（こ）は、おもいました。たった一（いっ）しゅうかんだったのに、ずいぶん長いこと、黄色（きいろ）いばけつといっしょにいたような気がしました。そのあいだ、あの黄色（きいろ）いばけつは、ほかのだれのものでもなく、いつもじぶんのものだったと、きつねの子（こ）は、おもいました。「いいんだよ、もう。」

きつねの子（こ）は、あっさりいうと、かおをあげて空（そら）を見（み）ました。青（あお）い青（あお）い空（そら）が、どこまでもひろがっていました。「いいんだよほんとに。」きつねの子（こ）は、もういちどそういうと、くまの子（こ）と、うさぎの子（こ）におかってニコっとわらってみせました。

（一）―せん①「とうとう月（げつ）よう日（び）」とありますが、「とうとう」から、きつねの子（こ）のどんな気（き）もちがわかりますか。アからウからえらぼう。

ア おもったとおり げつようびに なった。

イ まちつづけて やっと げつようびに なった。

ウ げつようびに なって こまったなあ。

エ ほんとに きょうは げつようびなのかな。

イ

(2) つぎのことは、だれがいったことばですか。あとの□の中になまえを書こう。

「ざんねんだなあ。」

くま

の子

「きのうは、ちゃんとあったのにね。」

うさぎ

の子

「もちぬしがとりにきたのかな。」

くま

の子

「いいんだよ、もう。」

きつね

の子

(3) 黄色いばけつがなくなってしまったのがわかったとき、くまの子とうさぎの子は、どうおもいましたか。□の中に二つ書こう。

もちぬしがとりにきた

だれかがとおりすがりに
ひろっていった

(4) きつねの子は、なくなってしまった黄色いばけつをどうおもっていますか。アからウからえらぼう。

ア ちようど、あきてしまったので
なくなつて ほつとした。

イ こころの中にあたたかくのこっている。

ウ だれかにもっていかれたのが
くやしくて わすれられない。

イ